



磨斧作針

2007年度
(社)鳥取青年会議所
広報誌 11月号

因幡

INNOVA [ina:va]
変革

鳥取青年会議所 検索
URL <http://torijc.main.jp>
E-mail torijc@hal.ne.jp

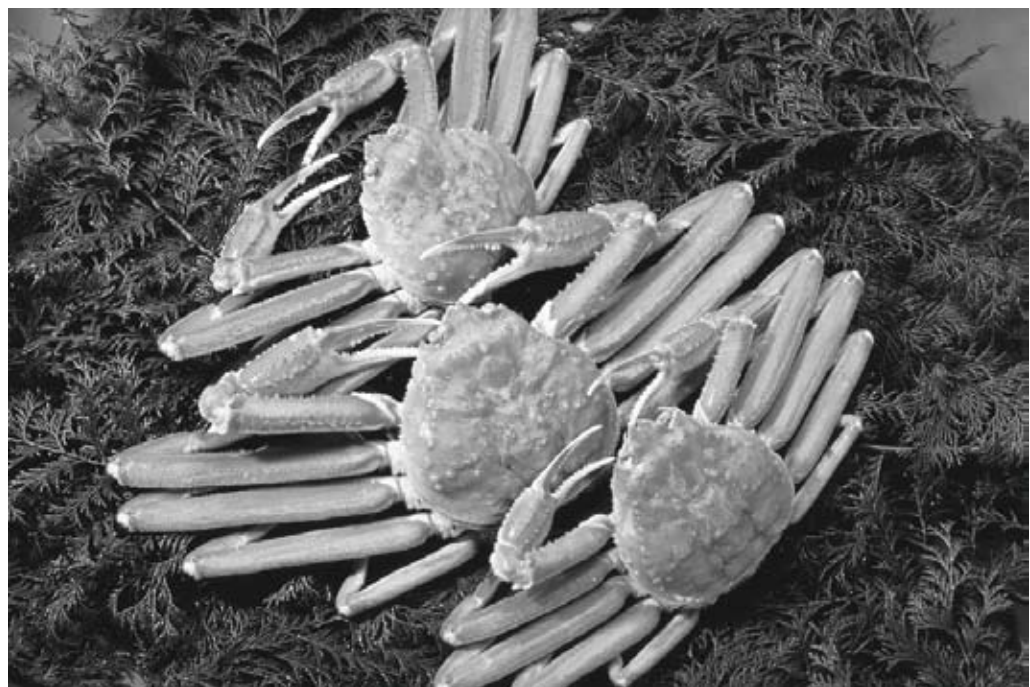


写真: 松葉ガニ...鳥取の冬の味覚の王様。初めて捕獲されたのは、元禄年間(1688~1704年)の頃と言われています。成長した雄のズワイガニだけが松葉ガニと呼ばれています。身を裂いて水につけると、松葉のようにフワッと広がることから名づけられた、とも言われています。鳥取県では11月第4土曜日を「松葉がにの日」と定めています。

十一月 理事長挨拶 安陪 幸伸

早いもので今年も後一月ほどで年が変わります。木々が赤く染まり、ちよつと外出するおりに何を上羽織つて出ようかと悩む季節であります。一年つて本当に早いものだと感じる今日この頃です。

先日、仕事の関係である大手企業の方とお話をいたしました。今年の四月に転勤で鳥取に引っ越してこられました。長くても三年ほどでまた違う地域に転勤されるそうです。俗に言われる「転勤族」といって自分でも言われていました。そこで、話題づくりもかねて「鳥取に来てみてどうですか?」と質問をしました。すると「何も無いところですね。電車もないし、バスは一時間に一本。砂丘は砂ばかりで見るところがない。」と本音をずばりとおっしゃいました。私もこれではだめだと思い「食べ物はどうですか、美味しいでしょう」と話題を切り替えると「いや、独り身だから無頓着です」あまりのストレートなお答えに「こちらの方がたじたじ」としてしまいました。

近畿の大都市から転勤でこられた方でしたが、都市から来られた方にとつて鳥取は退屈で仕方ないようでした。もちろんその後は切々と鳥取の良さを説明したのは言うまでもありませんが、現実を改めて実感した次第でした。

しかし、鳥取の良さを説明しながら私自身のなかにある疑問が生じました。よく言われる事に住んでる人には地元の良いところは身近すぎて解らないが、よそから来た人には地元の良さがよく解るんですよと言います。今回はそれが当てはまらないし、説明をしていて鳥取の押し付けになっている気がしてなりません。JCI活動において鳥取の魅力を発信・発信と口癖の様にいますが、案外、転勤で来られた方の素直に感じストレートに答えられた「何も無いところ」が鳥取の魅力なのかもしれません。色々なものが溢れるまちよりシンプルな鳥取が、もしかするといまちかも知れないと思えるこの頃です。

2007年度 日本JCスローガン 「日本の力」発信! 理想国家日本の創造に向けて!

2007年度 鳥取JCスローガン 目標を見定め「我」実行せん!

まちづくりの仲間紹介

毎月、鳥取県東部で活躍されているまちづくり団体をご紹介します

< NPO法人 ラーバンマネジメント >

私達は、「住民がいつまでも住み続けたいまち」をテーマに活動を進めています。アンケートをお願いし、その結果を元に勉強会や講演と発表会を開き、住民が参画するまちづくりを具体的な形にしてゆきたいと頑張っています。

私共NPOもまちづくりを進めるには、住民の立場からの「まちづくり協議会」設置の必要性を痛感しています。自分の生まれた土地が郷土であり、先人が守り育て受け継がれて行く歴史がまちづくりです。住民の方々と話し合いを充分にして、まちづくりと一緒に考えてゆきたいと念じています。

【問い合わせ先】 〒680-003 鳥取市本町1丁目103番地
TEL 0857-37-0257 FAX 0857-37-0258
e-mail : npo@rurban-p.com

まちづくりイベント情報

鳥取県『松葉がにの日』記念イベント

11月第4土曜日は鳥取県『松葉がにの日』です。

[鳥取かにフェスタ2007]

開催日 2007年11月24日(土) 9時~14時
場 所 鳥取港(マリンピア賀露)
料 金 入場無料
内 容

- かに汁の無料配布 9:30~、12:00~ (それぞれ先着500食)
- ダーツで松葉がにゲット 10:00~ 小学生以上1回200円(先着100名)
- 甲羅を投げてもらいまショー 11:00~ 1回200円(先着100名)
- 郷土芸能ステージ 9:00~14:00 その他にも盛りだくさんです。ぜひお出かけください!

【問い合わせ先】 鳥取かにフェスタ実行委員会 (鳥取港漁業組合内) TEL0857-28-0111

[第10回田後港大漁感謝祭]

開催日 11月24日(土) 8時30分~14時30分
場 所 田後港(岩美町田後)
内 容 松葉がに・水産物の販売、かに汁・もずく粥 無料配布、ステージイベントなど

【問い合わせ先】 田後港大漁感謝祭実行委員会 (田後漁業協同組合内) TEL0857-72-1531

事業の御礼

合宿 DE 合同演奏会 ~奏でよう! おもいやりのハーモニー~

青少年育成委員会 委員長 野田祐二

去る10月11日から14日まで、青少年育成委員会の事業「合宿DE合同演奏会~奏でよう! おもいやりのハーモニー~」を賀露小学校・賀露地区公民館にて行いました。

3泊4日の合宿を振り返ると本当にいろいろな事がありました。1日目の少しギコチない自己紹介ゲームからのスタートでしたが、高校生と小学生がお互いの曲を披露したとき、高校生の演奏する曲を聴いている小学生の目は憧れに輝き、小学生の一生懸命演奏する姿に高校生は拍手をおくりました。

そして各パートに別れ、言葉を選び、教え方を考えながら熱心に指導する高校生、そして先生でも大人でもない身近な憧れであるお姉さんの説明を真剣に聞いている小学生の姿、初めて行われた合同での演奏は本当にすばらしく感動的でした。子どもたちには年代を超えたコミュニケーションを通して、自分への自信そして、他人へのおもいやりの心を育んでいただけたと思います。そして実際に事業を行なってみると我々大人が考えるよりも彼女たちはしっかりしており自分たちで問題を解決できる能力をもっているのだと驚かされました。

この子どもたちが潜在的に持っている「力」を引き出す教育がとても重要であると改めて感じました。今回開催された「合宿DE 合同演奏会~奏でよう! おもいやりのハーモニー」は我々鳥取青年会議所はもちろん、参加してくれた子どもたち・協力して頂いた鳥取敬愛高校・賀露小学校の先生方・参加者の保護者・そして賀露地域のボランティアの方々みんなで作り上げたものであり、参加者を始めとする、関わっていただいた人々、みんなの笑顔が印象的な事業でした。この笑顔が因幡の地をスタート地点として全国へ広がり皆が幸せな明るい豊かなまちになることを強く願います。

最後に今回ご協力頂きました皆様に心より感謝し、御礼申し上げます。

◆今月の表題◆

磨斧作針...まぶさくしん

「斧を磨いて針を作る」と読み、普段の努力を続けるたとえ。どんな難しい事でも忍耐強く努力すれば、必ず成功するという意味。

参照...「四字熟語」これだけ辞典

**鳥取しゃんしゃん祭と市民の
まちづくりへの参加について考える**

ふるさと発信委員会

委員長 高藤 大祐

本年私たち(社)鳥取青年会議所は、我々が生活する因幡地域には多くの伝統文化が育まれていながら、身近にありすぎる故にその素晴らしさに気づかない財産が多く存在する点に着目しました。そこで伝統文化の魅力を発信していく事が因幡市民自身の誇りを醸成していく一つの手法であると考え、第43回鳥取しゃんしゃん祭にて誰でも自由に参加できる連「因幡市民連」を立ち上げました。

自身の郷土の文化に対する親しみを醸成し、市民一人一人が潜在的に持っている(因幡の誇り)を覚醒することで、市民がそれぞれの(想い)で因幡文化を発信していくことが、真の意味での『ふるさと』の発信』『まちづくり』であるとと言えます。

今回の「因幡市民連」の運営を通して、地域の財産である因幡固有の傘踊りを知るだけに留まらず、祭を通しての楽しさ、まち全体が一体になれる感動こそが、43年もの永きにわたり、鳥取しゃんしゃん祭が因幡市民に愛される理由だということを再認識しました。また、そんな場所を因幡の市民の方々は求め、それぞれの想いを郷土に抱き愛しんでいるのではないのでしょうか。

鳥取しゃんしゃん祭は、地元の祭の持つ素晴らしい伝統や文化をより身近に体験でき、誇りであったり、自身の郷土文化に対する親しみを醸成できる場所なのです。これからも因幡地域の財産を盛り上げていく事が、活気あるまち、ひいては全ての市民が誇りを持てる(まち)へと繋がっていくものと考えます。

そこで・・・
(社)鳥取青年会議所は鳥取しゃんしゃん祭振興会に下記の提案を行います。

**【提案1】
因幡市民連を創る事**

今回我々(社)鳥取青年会議所の因幡市民連が行ったように、祭で踊りたいが、出られない人の連を支援することは必要なことだと思えます。また、当日参加の観光客等も対応可能とする事が重要と考えます。これにより、鳥取しゃんしゃん祭の傘踊りが旅行代理店の商品ともなり、観光客の拡大、ひいては地域経済の活性化へつながると考えます。

【提案2-1】

参加運営費の援助

(先導車、揃いの衣装、傘修繕費など)又はレンタル傘増量

予算がなくて連に出られない、傘が無くて祭に参加できない小規模な連、傘が足らなくて困っている連に対しサポート、及び支援出来る仕組みを確立する。

【提案2-2】

運営費の参加者負担

参加連もしくは、個人の参加費負担、又は企業協賛を募っていく事により自分達の祭という意識を醸成する。

**【提案3】
傘のリサイクルイベント**

激しい傘踊りの中、修繕が不可能となる傘も沢山出てきます。そんな傘を利用し「とんどさん」のように共養し、イベントとして確立させる、又は再生オブジェコンテスト等を行い、商店街などにディスプレイ、コンテストを行うなど、踊るだけの傘ではなく、演出としてもリサイクルとしても活用方法はあるのではないかと考えます。



因幡市民連の様子》



《2007年 第43回しゃんしゃん祭り

因幡この人に聴く！
このコーナーは毎月因幡地域においてその言動が注目を浴びる方々にお話を伺います。

穂星連総合リーダー
田村賢治氏

安陪 今日は宜しくお願いします。私達(社)鳥取青年会議所は今年鳥取しゃんしゃん祭にて、誰でも参加できる連として「因幡市民連」を企画し運営しました。田村さんも同じように誰でも参加できる連を運営されたそうですね。きっかけから教えていただけますか。



《田村 賢治氏》

田村 そうです。

安陪 祭はやはり気持ちが大切ですよ。言葉で語るものではないですね。参加して何ぼのところがありませんか。

田村 周りの方にもどんな連なのかとか当日の様子などを聞かれますが、やはり体験してみないと言葉では説明できないですよ。

安陪 そうですよ。まちづくりにも評論家は必要なく、実践・実行しなければならぬのです。

田村 いろいろな連がありますが、笑顔はどこにも負けないと思いますよ。

安陪 若い方々の集まりのほうからしてみ出していたりするところもあります。やはり楽しんでそうで熱が伝わります。先ほど言われたように見ている人たちも違いますね。

田村 熱海のある村の祭を見たときに、参加者が本当に楽しそうにしている、村にとつても誇りであると聞きました。みんなが祭にとけ込んで、やんちゃな子も伝統に馴染んでやっていたんですよ。びっくりしました。鳥取だとどうなのかなと思いましたが、もう一つ、この鳥取に恩返しをしたいという気持ちで自分にあつたんです。このまちの人たちのお陰で今の自分があるんだと考えていました。最初はそこから見るだけだったんですが、楽しんで踊っている連と、踊らされているのかなという印象の連は違いがすぐ分かるんですよ。楽しんでる連は周りで見ている人たちも引き込まれるんですよ。おじいちゃんやおばあちゃんも寄っていきんですよ。その連の一つが知り合いで色々話をする機会がありました。彼はまちに恩返しをしたいからやつてんだと聞いて、自分もやろう！と決心したんですよ。

安陪 今年初めての参加ですよ。

田村 そうですね。楽しさも大切ですが、やはり伝統とかしゃんしゃん祭の型も大切なのです。見ている人が参加したいと思っていたら連にしたいのです。ちゃんとするとそこはちゃんとするようにしました。やはり礼儀とかも大切なことですから。まちへの恩返しと考えるとなさりでした。



《安陪 理事長》

安陪 私たちの因幡市民連に参加してくれた人たちは初めて集まった時、実は変な緊張感があつて心配していたんですが、祭の後には、「良かった」「来年も参加したい」と言っていました。

田村 私たちの連も最初はみなさん緊張していましたよ。ですのいろいろな工夫はしました。名札を作ったり、ひとまず練習に出てもらったら良いですよと声かけしたり、たこ焼きパーティーをしたり、風船のヨーヨーを作ったり、縄跳びしたり、みんなの距離が縮まるように心がけをしました。たね。場所も色々工夫しましたし、あとお金がかからないようにもしました。傘も買ったりのものではなくお借りしたりロボロボのものももたらせて自分たちで直したりしました。

安陪 終わって感想はどうですか。連帯感とか達成感とか。

田村 また来年も参加したいと言ってくれたのがうれしかったですね。若い人たちにゆくゆくは引き継いで行きたいですね。

安陪 思いがある人がこれからも集まってくると良いですね。最後に、鳥取に恩返しをしたいと冒頭に言われました。祭りがきっかけだと思いますが、人も集まってきたり何か今後の発展的な考えはありますか。

田村 穂星としては一生続けていきたい、これがまずは恩返しと思っています。参加して楽しかったとか見て感動したとかそう言われるようにしたいです。一年に一回ですから、とにかく続けていくことだと思っています。

安陪 私達青年会議所メンバーもまちに何かしたいという思いのある人たちの集まりなんです。この因幡、私たちのふるさとの良さを発掘したいという思いです。利益を求めるのではなくまちへの思いでされているということを知って感動しました。今後も頑張ってください。

田村 これからも人を集めて何かやっていきたいと思いますが、次の世代や次の次の世代に向けて何か伝えることが出来るようにしていきたいと思っています。今日はこちらこそありがとうございました。